

# 若いなかま

若いなかま No.201

2018 (平成30)年 3月15日 発行

発行 (公社)福岡県青少年育成県民会議

〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13番50号  
吉塚合同庁舎6F

TEL(092)643-6001 FAX(092)643-6003

E-mail : net.y.d@isis.ocn.ne.jp

ホームページ : <http://www.fayd.jp/>



## 目次

表紙 福岡県民さわやかマラソン…………… 1  
福岡県民さわやかマラソン…………… 2  
乳幼児教育研修会…………… 3  
広報紙発行200号までの軌跡(概要)…………… 4・5

地域の話題(行橋市、古賀市、豊前市)…………… 6  
(公社)福岡県青少年育成県民会議賛助会員のご紹介… 7  
青少年育成“考”、その他…………… 8

### (公益社団法人)福岡県青少年育成県民会議は、

青少年問題の重要性にかんがみ、広く県民の総意を結集し、国や県の施策に呼応して、総合的な運動を展開し、将来を担う青少年の健全な育成を図ることを目的に昭和41年12月13日に結成されました。

(昭和45年 社団法人。平成25年4月1日公益社団法人に移行となる。)



# 福岡県民さわやかマラソン大会

とき：平成29年11月26日(日)  
ところ：海の中道海浜公園

このマラソン大会も今年で17回目を迎えました。毎年小学生から高齢者まで多くの方が参加しています。特に今年からは、小学生未満も対象とした家族ペア0.5kmの新種目を取り入れ、29の種目で参加者は元気に、楽しく海浜公園内の特設コースを駆け抜けました。大会中は、曇り空で、寒くもなくまずまずの天候でした。

**今年の参加者は2,320人**

**いよいよ競技開始です。**

会場は子ども達などで大変にぎわっていました。毎年学校全員で参加している東住吉小学校の岩谷信太郎君と見弓数馬君のとても元気な選手宣誓。今大会のゲストランナーである、元シヨートトラックスピードスケート日本代表で、健康スペシャリストの勅使川原郁恵さんによる準備運動。また今大会から応援に駆けつけた、マスケットキヤラクター(県広報部長)エクトンも準備運動に参加、頑張りました。



今大会から小学生未満を対象とした家族ペア0.5kmの特設コースを取り入れました。予想を大きく上回る125組の家族ペアが参加されました。最新少参加者はなんと1歳7ヶ月です。元気に駆け出す子もいれば、途中泣く子もいたり、家族の方におんぶやだっこをせがむ子もいたり、見ているだけでもほほえましい姿ばかりです。大きな声で声援されていた家族の方が印象的でした。完走後はエクトンと一緒に記念撮影を楽しんでいました。



**1km・2kmの家族ペアです。**  
いつも一緒に練習しています。その成果を発揮する 때가来ました。子ども達が家族を引っ張つていきます。一緒に走る方も必死です。将来のアスリートを目指し頑張っています。



小学生部門5km・10km部門とそれぞれの思いを胸に元気にスタート。それぞれが入賞めざし頑張りました。入賞やタイムの更新等、目標達成された皆さんおめでとうございます。



## 小学生以下及び、家族ペアの種目別入賞者

### ◆0.5km走家族ペア

- ①青砥俊弥・悠②山本真芳・愛斗
- ③世利聡子・隼士

### ◆1km走▽小学1年(男子)①井上泰航②黒木珀③山川憲祐(女子)①松野兔萌②西岡真愛③末松凜安心小学2年(男子)①佐藤壮真②村上聡③東直輝(女子)①下川紗采②野崎友乃③山本真里奈小学3年(男子)①崎山雄万②近藤優羽③濱田校生(女子)①加藤美海②山口心翠③葉室優貴

### ◆家族ペア小学4年▽小学6年

- ①藤田真一・紗英②西田良生・誉③宮崎崇・晶成

### ◆家族ペア小学3年以下

- ①土岐学司・朔太郎②竹松宏之・大喜③大場伸亮・尊道

### ◆2km走▽小学4年(男子)①山元幹太②大賀匠③縄田晴輝(女子)①原田綾夏②桑田明日香③末松妃和心小学5年(男子)①井形麗矢②坂田龍輝③岩尾春(女子)①永島心音②溯上彩代③山中日花里小学6年(男子)①丸山永遠②後藤琉碧③西岡樹希(女子)①松野藍霞②有富春菜③清水かえで

### ◆家族ペア小学4年▽小学6年

- ①山本幸二・千夏②橋本悠吾・明奈③長谷川匡章・駿人

### ◆家族ペア小学1年▽小学3年

- ①坂根宗行・一希②金藤侑輝・悠晟③蛭子堅司・慶太

大きな銀行より、  
大好きな銀行に  
なりたい。



この街でいっしょに  
**福岡中央銀行**

# 平成29年度 乳幼児教育研修会

日時：平成30年2月9日（金）13：00～15：30 会場：都久志会館（福岡市中央区天神）

今年度の開催は、インフルエンザの大流行や前日までの寒波による交通状況が心配されたが、当日は好天に恵まれ、乳幼児教育を始め青少年育成に関わる100名余りが会場を埋めた。研修に先立って、家庭部会長の杉原敏子氏より、『思春期にある青少年の問題行動の始まりは、幼児期からの家族や周囲とのかわり方に始まっている。この大切な時期に、私たちはどのように関わっていけばよいか、今日の研修会を通してヒントになるものを見出して戴きたい。』と、挨拶があった。

小郡市の「親子教室」事業報告に引き続き、助産師を38年、2004年より九州思春期研究会事務局長として活躍されている、行橋市在住、内田美智子氏の「命がけで子どもを育てる大人の使命」について基調講演が行われた。



## 基調講演

### ■テーマ

「奇跡の命をつなぐ子ども達と、育む大人の使命」

講師 内田美智子 氏

●助産師・思春期保健相談士



■『何事もなく生まれてくるというのは奇跡。私たちの周りにいるその奇跡の子どもたちに、私たちは何をしなければならないか。』…講師の内田美智子氏は、行橋市で産婦人科開業医の夫と共に年間400～600人の出産に関わっている。■産婦人科は女性の人生の縮図であるという。無事に出産し笑顔もあれば、死産の我が子を胸に乳を含ませ、悲しみに暮れるお母さんの姿も。子どもが無事に生まれてくるのが、あたりまえは間違い。奇跡なのだ。■産婦人科に来る思春期の子ども達に関わって30年近い。家庭の様々な事情を見ていく中で、子どもが育つ基本であり、子どもの「権利」でもある家庭での「食」の在り方が、特に子どもの将来に影響をもたらす。■「命を戴き命をつなぐ食の大切さ」子どもがご飯を食べないで育つことがどんなにとんでもないことか。■「早寝・早起き・朝ごはん」は食育の基本。朝ご飯を食べさせないのはネグレクト。そこに自尊感情は育たないと、講師は、はっきり言う。■生んだ以上、人として社会に参画できる子どもを育てる使命がある。■乳幼児期教育のプロの皆さんへ、10年後、この子どもたちがどんな15歳になるか想像しながら携わってください。今できることはたくさんあるが15歳になってできることは少ない。（抜粋）

☆講演を終えて…講演中、優しい音楽と共に文字と写真が静かに映しだされた。「子どものそばにいられる時間はそう長くはない。残せるものも多くはない」「命がけで生んだら命がけで育てることは大人の使命」「母と子を支えられる大人でありたい」…講師の思いが、映像に散りばめられた言葉を通して、会場の人たちの胸に、深く刻まれた。

ている。市民会議と小郡市家庭教育学級が連携、協力して行った今年度6回の事業について報告があった。①「親子ヨガ」親子で一緒に行うポーズや、マッサージによるスキンシップなど特別な時間を共有できた。②「うたとあそびとじんぶん」破ったり、形をえて大活躍の新聞紙、おもちゃ



小郡市青少年育成市民会議では、青少年健全育成の最も重要な時期は、胎児期、乳幼児期と考

がなくて十分に楽しむことができた。③講演「地頭のいい子を育てる食卓の力」毎日の食卓で親の愛情が子どもに伝わる。日々、家族で囲む食卓を大事にする。家庭での食が単に体を作るだけでなく、心を育てることに繋がっている。④「わくわく！親子芋ほり体験」子どもの成長、発達に欠かせない自然体験。⑤「親子の絵本クリスマス会」パネルシアターや大型絵本の読み聞かせ、体遊びや歌で親子のコミュニケーションを深めた。⑥「子どもに伝えたい生命のふしぎ」食事の改善が体の改善につながる。胎教に良い呼吸法、赤ちゃん

性に応じて支援の拡充を図っていくことが大切だと感じた。これからの小郡市の支援の方向として、「子育てに関わる部署との連携」一点を線にする切れ目のない支援をめざし、わかりやすい支援や周知、提供をしていきたいと、事業の成果を締めくくった。

## <指定3年目>

「親子教室」事業報告  
小郡市青少年育成市民会議・小郡市生涯学習課  
発表者 吉持恵利子 氏  
小郡市生涯学習課 社会教育指導員



の味覚、脳の発達など食育劇団の皆さんにより盛りだくさんの話が提供された。親子教室の各講座終了後には、参加者同士がグループで講座を振り返り、学んだことを皆で共有する時間を設けた。乳幼児を持つ保護者は、「集い」つながり「学び」相談の場」を求めている。また、不安や学びを共有したことで安心感が生まれ、子育て世代の自分自身の子育てを見直す良い機会にもなることがわかった。講座により託児を導入したことも参加者には充実した時間となった。3年間の「親子教室」事業を通して、必要性に応じて支援の拡充を図っていくことが大切だと感じた。これからの小郡市の支援の方向として、「子育てに関わる部署との連携」一点を線にする切れ目のない支援をめざし、わかりやすい支援や周知、提供をしていきたいと、事業の成果を締めくくった。

# 広報紙「若いなかま」発行、 2000号までの軌跡(概要)

その2

広報紙「若いなかま」は平成29年11月15日付けの発行で第2000号となる。記念号となる今号は、創刊号からの時代背景や広報部会の軌跡を紹介する。

る死亡事件が続発し、県民会議も数年に渡り「いじめ」問題を大きく取り上げています。指導員研修会、シンポジウム、合同会、集い、キャンペーンの開催など官民総力を挙げて、この問題に取り組みました。

広報部会は松尾部会長、丸山副部長、目野博子、広田昌子、村上、森、林、佐、河野、高田、の各氏でした。翌年には、林、広田の両氏が荒川直江、伊折千秋氏に交代しています。



◆平成10年第141号では福岡県が「パタフライナイフ等有害玩具類に指定する条例」を制定した記事を掲載しています。これは、青少年のナイフによる殺傷事件が相次いだことからです。

◆平成12年第148号には福岡県が方針化した「青少年アンビシャス運動」を県民会議運動と一体的に進めることを記事にしています。この頃、村上、森、佐藤、河野、高田の各氏から福井悦子、国広友子両氏と交代し、その後、力武、暁氏も就任されました。人数も10名から8名松尾部会長、丸山副部長、目野、荒川、伊折、福井、国広、力武の各氏」になりました。なお、平成13年第151号には麻生渡会長から福岡大学の学長山下宏幸氏へと会長が交代していることを掲載しています。

ンナーをはじめ覚醒剤が青少年の問題を更に深刻化している状況が背景にありました。



◆平成15年第158号では、広報部会で取材に関わる座談会を開催しています。読者に広報紙を作成するときの様子などを伝えるための企画でした。また「一人あて活躍する青少年指導者の方々」に焦点をあて、取材記事としました。最初は、広川町の「たまゆらの会」の野中勝美さんの活動を紹介しました。

さらに平成17年第162号では「シンナー乱用 全国5年連続全国一位」として青少年がシンナーや薬物に簡単に触れる様な地域社会に警鐘を提起しました。

この様な中、第165号では全国では青少年による殺人事件が相次ぎ、国民会議より「地域のおじさん、おばさん 運動の実践を」の緊急アピールが行われたことを掲載しています。広報部会委員は、平成18年に清水、榮、平田美子両氏を委員として迎えています。(その他の部会委員は、伊折千秋部会長、福井、力武、国広)

◆昭和61年の第103号には「〇歳児教育の重要性に思う」と初めて「〇歳児教育」の記事がでています。「〇歳児教育」の重要性が認識されてきた事が背景といえます。昭和63年の第109号より青刷りの広報紙にリニューアルされました。また、年3回の広報紙発行になったのもこのころです。広報部会委員は、相羽、堯部会長、秋枝蕭子副部長、広川俊雄、河野本和、村上信子、森、博子、林スミ子、佐藤セツコの各氏でした。

◆平成元年の第112号には「少年非行防止・暴走族追放決起集会」が各地で開催され、「少年非行」という文言も見られるようになりました。平成3年の第118号には「ダイヤルQ2」が緊急問題として取り上げられ、NTT等へ対策の強化要請や「有害俗悪図書・ビデオ自販機撤去運動」が盛んに行われています。



◆平成4年第121号では「学校週5

日制」に行政と地域をあげて対応することが記事となっています。このころの広報部会委員は松尾正義部会長、丸山美恵子副部長、高田、学、広川、河野、村上、森、林、佐藤の各氏でした。

◆平成5年第124号では「豊かさ、ゆとりと青少年」の青少年白書を紹介し、「ゆとり教育」に関連した取り組みについて記事にしています。平成6年の第126号から末頁に「広報部員のひとこと」を掲載し始めました。平成7年第132号には、特に福岡県において社会的問題になり始めた「いじめ」「不登校」問題を取り上げています。特に特集として「ツーショットダイヤル問題は、喫緊の克服する問題として大きく取り上げていました。広報紙の大きさをそれまでのB5版からA4版に変更し、「若い仲間」を「若いなかま」と変更しています。



◆平成7年豊前市、平成8年城島町でいじめによる自殺が、飯塚市で体罰によ

一方、映画「DRUG」の上映とトークセッションや「麻薬・覚醒剤乱用防止キャンペーン」等も掲載しています。これは、シ

さらに、読みやすい紙面作りをとの考えから、第169号から表裏紙のみを色

印刷に変更しました。そして、平成20年第172号から念願の全頁フルカラーにする事ができ、ふんだんに写真を利用し、「読みたい、見たい」の広報紙作りさらに一歩近づくとが出来ました。



なお、この年、山下会長が退任され、新会長として株式会社ホークスタウン取締役副社長長右田喜章氏が就任しました。  
◆平成21年第174号から乳幼児虐待やニート、ネットいじめ・犯罪等、携帯・スマホやパソコン等の急激な普及・拡大で青少年を取り巻く環境と問題が大きく変化しています。この様な問題をスピーディーに広報紙面で取り上げ、青少年の指導者へ情報を提供するため「特集」を企画しました。最初の平成

Special feature: 何とかなりよう! 薬物利用日本一. Includes a bar chart titled '少年による薬物利用状況' (Drug use by juveniles) showing trends from H16 to H20.

21年の第174号では「薬物乱用問題」を取り上げ「STOP 薬物 何とかしよう薬物乱用日本一」をテーマに県警本部に取材に行き記事として問題を提起しました。

一方、175号より協賛広告を西日本シティ銀行さんに初めて掲載して頂きました。その後、福岡銀行・福岡中央銀行、日本たばこ(株) ファピルス、天神スカイホールさんに協賛広告を掲載して頂きました。

◆平成22年第177号ではソフトバンクホークス王会長に広報部会委員が単独インタビューを行いました。王会長からは、青少年の健全育成のために更に取り組むように激励を頂きました。この時期、広報部会委員として馬場京子、安武憲明、石橋具視各氏を委員として迎え、更に平成25年からは手島道子、伊藤憲行委員が就任しています。(部会委員は馬場部会長、安武、石橋、手島、伊藤各委員)  
◆平成25年第187号から「青少年育成考」を開始し、理事の皆さんを中心に青少年健全育成に関わり平日頃の雑感を掲載して頂きました。いずれの内容も日常生活の中で共感する部分が多く好評です。平成29年第197号では、県民会議設立50周年記念として「県民の集い」を開催し、記念講演、雅楽演奏、永年功労者表彰の内容を掲載しました。

福岡県青少年育成県民の集い 開催. Includes photos of the event and text about the 50th anniversary of the prefectural youth development council.

第198号からは特集の内容を「子どもと伝統芸能・文化」に決定し、地域における大人とのふれ合いを通じた取り組みを取り上げています。

Special feature: 待春. Includes photos of children and text about traditional arts and culture.

この間、広報部会委員には、伊藤、手島委員が辞任され、新たに、長野一江、中村香代子、小串保子の各氏が委員に就任されました。(広報部会委員は、馬場部会長、石橋、長野、中村、小串各委員)そして、平成29年11月に第200号の広報紙「若いなかま」を発行することが出来ました。

終わりにあたって紙面には広報紙「若いなかま」の軌跡を「その1」「その2」としながらも、概要としてしか掲載できませんでしたが、これまでの、広報部会委員、支援して頂いている会員共同募金会の方々、改めて深く感謝を申し上げます。広報部会は今後も「青少年健全育成」推進のため、より良い紙面を作っていくための努力を重ねて参りますので、宜しくご支援・ご協力を御願ひ申し上げます。(おわり)

TENJIN 16 SKYHALL 天神スカイホール. 福岡・天神の多目的ホールとして「心からのおもてなし」を提供いたします。講演会、シンポジウム、研修会、各種パーティー、同窓会、記念行事など幅広くご利用いただけます。お気軽にご相談下さい。〒810-0001 福岡市中央区天神1丁目4-1 西日本新聞会館16階 TEL: 092 (712) 8855 天神スカイホール 検索

## 田川児童相談所を訪問

(平成29年12月21日)



### ■ 行橋市青少年育成市民会議

本会補導部会が主になって、毎年クリスマスの時期に田川児童相談所を訪れ、子どもたちにプレゼントをしています。今年も行橋警察署少年課から2名と少年警察ボランティア協会から1名そして県立大学の学生サポーター3名、市民会議から4名計10名が訪問。約1時間30分子どもたちとビンゴゲームや学生サポーターによるアートバルーン作りで楽しい時間を過ごしました。最初硬い表情だった子どもたちも時間の経過とともに和らぎ笑顔が見られるように。今年初めて試みたポップコーンづくりもおいしく仕上がりが、子どもたちの評判も上々。サンタから一人ひとりにプレゼントが手渡され、終了に。学生サポーターの協力もあって大変充実した時間を子どもたちと共有できました。



## 行橋市・豊前市・古賀市の 地域の話題

### 3地区の活動を紹介します

### ちづか 第27回 千束町青少年育成と ふれあいまちづくり餅つき大会



#### ■ 豊前市青少年育成市民会議

豊前市青少年育成市民会議千束支部では家庭、学校、地域が一体となり青少年の健全育成に取り組む活動の一環として餅つき大会を開催しました。12月



10日、千束公民館において千束小・中学生、学校関係者、子ども会、区長会、長生会、婦人会消防団、体協、青少年育成千束支部の役員ら約250名が集まり千束小5年生が作ったもち米など約100キロの餅をつきました。小さな子供から年配者までが力を合わせて餅をつき、す餅、きな粉餅、あんこ餅にして食べました。また、作った紅白の餅は、ふれあい餅つき大会終了後に子ども会を通じて千束町内の独居老人宅に配り喜ばれました。

## 賛助会員へのお知らせとお願い

このほど広報部会では、あらゆる場所で取り組まれている青少年健全育成や社会貢献を広く紹介すると共に、さらに、県民の方々が身近に感じる広報紙の内容にすることとしました。つきましては、全ての賛助会員の方から広報紙「若いなかま」に掲載する記事を募集します。

- ① 掲載する記事は、「青少年健全育成」「社会貢献」等を内容とする取組
- ② 記事の字数は、300字程度、なお、活動の様子が分かる写真1枚必要
- ③ 記事の掲載は、7月、11月、3月の発行月に近い号に掲載
- ④ 記事を送る場合は、メール、FAX、郵送でも可能(ただし、写真は、メールか郵送)
- ⑤ 送り先

〒812-0046  
福岡市博多区吉塚本町13-50  
福岡県吉塚合同庁舎内6F  
(公社)福岡県青少年育成県民会議 育成課:田中宛まで  
TEL:092-643-6001 FAX:092-643-6003  
メール:tanaka.m.1803@diary.ocn.jp

### 古賀市青少年健全育成大会開催



#### ■ 古賀市青少年育成市民会議

古賀市の青少年育成事業として、毎年7月に家庭、地域、学校など青少年育成にかかわる諸団体が一堂に集まり開催しています。それぞ



れぞれの立場で青少年育成の充実と子どもたちの健やかな育成のため、地域全体で子どもたちを見守る意識の向上を図ることを目的に実施しています。今回は「少年・少女主張大会」の入賞者3名の中学生が作文発表を行い、アトラクションとして古賀市の「少年の船」団体が沖縄研修体験を発表しました。体験発表の最後には素晴らしい踊りで終了しました。

**FFG** 福岡フィナンシャルグループ

あなたのいちばんに。

**福岡銀行**



# 平成29年度 (公社)福岡県青少年育成県民会議へ賛助いただいた会員の御紹介

平成 30 年3月1日現在 (敬称略: 50 音別)

次の世代を担う青少年の健全育成活動にご支援いただき、誠にありがとうございます。心から御礼を申し上げます。

## 特別賛助会員の皆様

- |  |  |   |
|--|--|---|
| (株) ア キ ラ 水 産<br>(株) ア サ ヒ 緑 健<br>エンリーサービスプロモーション<br>九州電力<br>九州旅客鉄道<br>(株) 九 電 工<br>コカ・コーラウエスト<br>J A バ ン ク 福<br>西 部 ガ ス | (株) 筑 邦 銀 行<br>(株) 西 日 本 シ テ イ 銀 行<br>(株) 西 日 本 新 聞 エ ス ビ ー セ ン タ ー<br>(株) 西 日 本 鉄 道<br>(株) 日本映像ソフト制作・販売倫理機構九州支部<br>(株) 日 本 食 品<br>(株) 日 本 た ば こ 産 業<br>(株) 福 岡 銀 行<br>(一社) 全日本アミューズメント施設業者協会連合会 福岡県本部 | (一社) 福 岡 県 共 栄 会<br>福岡県信用保証協会<br>(公社) 福岡県宅地建物取引業協会<br>福岡県町村協会<br>福岡県公認ボウリング場協会<br>(株) 福 岡 中 央 銀 行<br>(株) 福 岡 小 倉 銀 行<br>ボ ン ウ エ イ |
|--|--|---|

## 団体賛助会員の皆様

- |   |  |   |
|---|--|---|
| (株) あ ら い<br>NPO 飯塚市青少年健全育成会連絡協議会<br>石 橋 印 刷<br>(株) 石 村 萬 盛 堂<br>糸田町自由ヶ丘老人クラブ<br>岩 崎 建 設<br>岩 本 明 子 英 会 話 教 室<br>上 村 建 設<br>(株) 工 業 コ<br>(株) お お す み 制 服<br>大野城ライオンズクラブ<br>粕 屋 殖 産<br>嘉 穂 無 線 ホ ー ル デ ィ ン グ ス<br>(株) 蒔 田 ラ イ オ ン ズ ク ラ ブ<br>(合) キ ャ メ<br>キ ュ ー サ イ<br>(一社) 九州学士会福岡支部<br>久 留 米 商 工 会 議 所<br>(医) 光 風 会 宗 像 病 院<br>(医) 高 邦 会 高 木 病 院 | 公立学校共済組合福岡宿泊所<br>小竹町御徳工業団地企業連絡協議会<br>(株) 三 裕 会 三 拾 六 町 病 院<br>(医) 新 日 鐵 住 金 (株) 八 幡 製 鐵 所<br>NPO 法人次世代の子カラFUKUOKA<br>(医) 成 晴 会 堤 病 院<br>(株) 瀨 利 宗 助 商 店 社<br>(株) 高 木 印 刷<br>(株) 千 鳥 饅 頭 総 本 舗<br>東京海上日動火災保険<br>(株) 西 日 本 新 聞 印 刷<br>(株) 西 日 本 新 聞 会 館<br>(株) 八 ち ゃ ん<br>(株) ヒ ュ ー リ ス ア カ デ ミ ー<br>(株) ヒ 口 カ ネ<br>福岡空港ビルディング<br>福岡県私学協会<br>(社) 福岡県私立幼稚園振興協会<br>福岡県商工会連合会<br>福岡県農業協同組合中央会 | 福岡県遊技業協同組合<br>(一社) 福岡県労働者福祉協会<br>(社) 福岡県海上二保<br>富士火災海上保険<br>(株) 藤 川 学 園<br>(株) 瀧 上 フ ァ イ ン ズ<br>(株) フ ラ ワ ー ビ デ オ<br>(株) 三 丸 産 業 信<br>(株) 井 ミ 松 ナ 島 ミ 商 事 社<br>(株) 明 治 安 田 生 命 保 険 相 互 会<br>(株) 百 田 工 務 店<br>(株) 山 本 組<br>(株) ワ イ ズ ヨ シ ハ |
|---|--|---|

## 個人賛助会員の皆様

- |   |   |  |  |   |  |  |  |   |  |
|---|---|--|--|---|--|--|--|---|--|
| 青木 毅<br>青野 隆子<br>赤尾浩太郎<br>赤星 満子<br>秋山憲一郎<br>秋吉 幸二<br>浅野 翔太<br>阿多 一信<br>穴見 英三<br>新井 潤<br>新井 洋子<br>井浦 蘭子<br>伊折 千秋<br>石川 治夫<br>石橋 具視<br>伊東 清寛<br>伊東 望<br>稲富 明<br>井上 高顕<br>井上 俊治<br>猪瀬 正典<br>入江 智子<br>岩村 幸二<br>因 征四郎<br>植田富士子 | 上野 一成<br>上村 育也<br>牛島 昌哉<br>内山 慶子<br>梅木 聡子<br>江川 洋子<br>江崎 恵子<br>江崎美津子<br>江崎 峰子<br>江副真喜子<br>江副 正昭<br>大内マツノ<br>小串 保子<br>大澤 良一<br>大島 勇夫<br>太田 強<br>大西 潤平<br>大庭 奈名<br>大橋 拾子<br>大原 始<br>大曲 昭恵<br>大群 拓也<br>大藪 和子<br>岡松 直照<br>岡村 憲人 | 奥 久志<br>尾座本宜一<br>忍田十三子<br>越智 康久<br>藤隆 英次<br>戒田 協枝<br>柿本 憲治<br>陰山 博<br>笠木 一夫<br>笠原 高司<br>香月 均<br>加藤 重敏<br>金澤 克朋<br>金子 博<br>榎島 篤<br>榎島 謙治<br>榎島 義幸<br>神谷 龍治<br>菊次 和夫<br>城戸 徳郎<br>久保田浩介<br>熊谷 博孝<br>熊野 君男<br>熊本 幸雄<br>倉富 昭正 | 厨 元博<br>古賀 聡子<br>古賀 敏彦<br>古賀 祐三<br>古園井広記<br>児玉 弘<br>後藤 秀昭<br>後藤 政喜<br>小林 祥彦<br>小林 孝行<br>小宮 董<br>小宮 良俊<br>小山雅千子<br>是枝 高司<br>河野 達海<br>権現 昭二<br>佐藤 和久<br>佐藤 俊之<br>芝 奈美<br>芝 義勝<br>下茂野 寛<br>城 裕介<br>庄司 真美<br>白土 聖司<br>末崎 牧 | 末田 金次<br>末次 威生<br>末松 六則<br>須貝由美子<br>杉原 憲宏<br>杉原 敏子<br>鈴木 康敏<br>陶山 正徳<br>関 好孝<br>副島 紀身<br>染矢 敬雄<br>大安 弘薫<br>田尾 泰幸<br>高橋 宏<br>竹井 章<br>竹田 芳朗<br>竹永 悟<br>田籠 重利<br>田代 強一<br>田代 保博<br>田中 信<br>田中 一弘<br>田中 浩治<br>田中 祐二<br>谷 治子 | 田畑 隆明<br>田和 昭寿<br>津上 正幸<br>塚本 靖<br>辻村 哲弥<br>手島 道子<br>徳永 文悟<br>中下 啓志<br>中島 浩<br>中島 貴美子<br>中島 俊介<br>中島 達朗<br>中島 利男<br>中嶋 俊子<br>中嶋 博之<br>長野 一江<br>長野 繁蜜<br>長野 士郎<br>長野 春奈<br>中原あや子<br>中原 憲幸<br>中村 香代子<br>中村 清<br>中村 征一<br>中村 治幸 | 中村 睦子<br>中村 良洋<br>滑石 隆紹<br>灘波 千明<br>灘波 辰祐<br>西岡 隆<br>野上 明倫<br>野口 和恵<br>野田 好秋<br>野田 則光<br>葉玉 博幸<br>花田 拓<br>花田 真雄<br>馬場 京子<br>馬場 忠久<br>早川 良子<br>林 初代<br>林 賢太郎<br>原 明義<br>原 桂子<br>原口 庄塑<br>稗田 慶子<br>東 久恵<br>久門 尚基 | 久下 正俊<br>秀 ハツ工<br>日比 健次<br>百武 剛<br>兵頭 正俊<br>平田 美子<br>平野 学<br>平野 真規<br>深見 健児<br>福井 悦子<br>福澤 信義<br>藤田 信義<br>藤田 孝子<br>藤田 直子<br>藤田 信治<br>藤津権三郎<br>藤本 晶子<br>藤本 廣子<br>藤山 泰三<br>洲上 孝<br>船越 章夫<br>古川 雅子<br>古川 孫一<br>戸次 光生<br>別府 隆文 | 堀家 克巳<br>真子 太<br>増田美智代<br>松石 量則<br>松枝 米洋<br>松岡 久代<br>松隈 秀隆<br>松本 美香<br>松本 洋子<br>松本 好成<br>三島 正浩<br>満生充一郎<br>光延 時江<br>三苫 智恵<br>南 巧<br>南 博<br>宮崎 陽子<br>宮永登志男<br>見雪 和之<br>牟田 敏雄<br>牟田利加子<br>村上 治<br>村上 信子<br>村田 浩<br>村田 洋平<br>村山真知子 | 本園 明<br>森 博三<br>守田 栄三<br>森永 武彦<br>森永 泰雄<br>森野美枝子<br>八木 信次<br>安武 憲明<br>彌永九州男<br>山田 和子<br>山田 貴文<br>山田 憲勝<br>山根 千里<br>横溝彌太郎<br>横山 繁利<br>吉里 光世<br>吉田 壽一<br>吉田 正宇<br>吉武 寛将<br>吉留 節子<br>吉野 利子<br>吉原 陽子<br>米倉 秀之<br>米倉 正廣<br>力武 暁<br>丸 敏光 |
|---|---|--|--|---|--|--|--|---|--|

# 事務局だより

主な行事(12月29日～1月30日) 報告会及び「育成キャンプ」報告会及び福岡県青少年育成指導者研修会

- 12月 3日(日) 福岡県青少年育成指導者研修会
- 9日(土)～10日(日) ジュニアリーダー養成事業
- 12日(火) 青連協常任委員会
- 13日(水) 第6回「県民の集い」実行委員会 役員・顧問・専門部会委員会合同会議
- 1月 8日(月) 「家庭の日」オアシス運動 最優秀作品表彰式 ※14日までアクロス福岡で展示
- 15日(月) 第12回広報部会 (以降、1/29、2/19、2/26、3/6、16)
- 19日(金) 青連協50周年記念事業実行委員会
- 21日(日) 第4回健全育成部会
- 23日(火) 県民さわやかマラソン 第5回事務局会

- 2月 2日(金) 第4回家庭部会(以降、3/22)
- 6日(火) 県民マラソン監査
- 9日(金) 乳幼児教育研修会
- 20日(火) 青連協常任委員会
- 22日(木) 県民さわやかマラソン実行委員会

- 3月 3日(土)～4日(日) 青連協青年リーダー先進地 派遣研修事業(神戸)
- 14日(水) 理事会
- 24日(土)～28日(水) 第17回福岡県江蘇省 青少年間善交流大会(江蘇省 青少年間善交流大会)
- 29日(木) 市町村民会議等合同研修会

新賛助会員(12月11月現在)

個人 赤尾浩太郎(福岡市)

**赤い羽根共同募金**



高齢者、障害者、子どもたちなどへの地域の福祉活動を支援します。災害時には「災害ボランティアセンター」の設置や運営にも役立ちます。

この広報紙は、共同募金の配分を受けて発行しています。

## 青少年育成考



久留米市青少年育成市民会議 事務局長 吉住 英男

### 「子どもの笑顔があふれるまち 広げよう活動の輪を」

私は、今年古希を迎える年齢になり、戦後まもない時代に育った私達にとつては、今日までのめざましい高度成長は想像もつかないことでした。物は溢れんばかりの豊かさをもち、お金さえあれば何でも手に入れることができ、心が豊かさが取り残されている感があります。幼少の頃、自然の中で遊び、地域の大人から叱られ、親の後ろ姿を見て社会性を身につけて成長した記憶を多く思い出します。

これから先、次代を担う子ども達の社会は、情報化・国際化・少子高齢化等の大きな波が益々押し寄せてくると考えられます。

そのことから、青少年が生活や育成事業の場を通じて、心豊かで実践力を備えた子ども達を育成することが望まれます。私達が子ども達の成長を願って活動のお世話をすることは大変意義あると考へています。

久留米市青少年育成市民会議として、地域や関係機関と連携し、子ども達の活動や発表の場を取り入れるための企画・運営の重要性を認識し、若者達が健やかに成長することを目指し、文化的行事や体育的行事を通して活躍の場を設けることを心がけています。

そのため、毎年行われるイベントを実施するにあたり、学校や地域の活動を全体的な活動に広げることや、相互の高まりを共有することに繋がるようにしています。

本会の「弁論大会」を経験した生徒が、県主催の「少年の主張福岡県大会」で、二年連続、県知事賞を受賞し、全国大会にも出場できた嬉しいニュースは、大きな宝物になる等、努力すれば夢や目標が実現できることを教えてくれた事例と受け止めています。

## 編集後記

節目の200号発行までに約半世紀の歳月が流れています。▼県民会議100周年、若いなかま300号に向けての新たな一歩の201号です▼年度の最終号には毎回特集を掲載していますが今回は前号からの引き続き「若いなかま」の軌跡を紹介▼特集記事は今後も継続し各地の青少年にかかわる話題や活動取材、臨場感豊かに伝えたいと思います▼慢性広報委員不足に朗報▼昨年十一月に藤岡ひとみさん、今年一月に小野剛史さんが広報委員に就任されました▼新戦力の活躍・新感覚に期待します▼読者の皆さんご期待ください!

県民会議広報部会長 馬場 京子

**広報紙 200号の訂正とお詫び**

平成29年11月15日付け発行の広報紙「若いなかま」200号において「第39回少年の主張福岡県大会」各受賞紹介で優秀賞第一席の安立琴音さんと北九州市長賞の小野優衣さんが入れ替わっていました。ご本人をはじめ、関係者の方々には、大変失礼をしました。改めて訂正させていただきます。心よりお詫び申し上げます。

### 青少年の健全育成のために

### 賛助会員入会のお願い

次代を担う青少年の健全育成を図るため、県民会議は、少年の主張大会、野外学習、マラソン大会など、様々な活動をしています。

県民会議では、賛助会員の募集を行っています。会費は左下のとおりです。電話(092-643-6001)をいただければ、資料をお送りいたします。

#### 賛助会員の年会費

- 個人 1口 1,000円
- 法人又は団体 1口 15,000円
- 特別賛助会員 1口 50,000円

#### 納入いただく方法

会費は、公益社団法人福岡県青少年育成県民会議の次のいずれかの口座に納入していただくか、県民会議事務局に直接ご持参ください。

西日本シティ銀行千代町支店(普通預金) 3053033  
福岡銀行県庁内支店(普通預金) 526475  
筑邦銀行福岡営業部(普通預金) 1597091  
福岡中央銀行本店(普通預金) 1030569  
ゆうちょ銀行振替 01700-5-4057



この用紙は、森林資源保護のため再生紙を使っています。